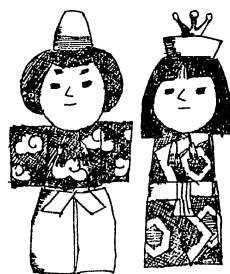


農業

平成30年3月号
会誌 No. 1636



目次

巻頭言

- 地域主体の農業農村の振興を目指して……………太田 信介 3
－現場での試みの報告－

論 壇

- 窓と縁側……………祖田 修 4
－人間の居場所・ドイツと日本－

平成農業技術史研究会

- 第5回平成農業技術史研究会－果樹作における技術の展開－
話題提供……………梶浦 一郎 6

表彰農家訪問

- 秋田県における花き生産の成長を支える農事功績者……………今西 英雄 19
－秋田市の鷲澤幸治さんと横手市の羽川與助さんを訪ねて－

寄 稿

- 日本のコメ政策の激変のころ……………吉村 正機 30

農業関係予算情報

- 平成30年度農業関係予算の概要……………編 集 部 40

農業・農村の現場から

- 農業を軸に資源と経済が循環するニセコ町……………片山 健也 51
－農業が支える国際リゾート地へ－

世界の農業は今

韓国における農産物貿易……………樋口 倫生 57
- 産业内貿易に焦点を当てて -

私の経営と志

自分がやりたいと思う農業……………田中 誠司 61

東京農業大学収穫祭から (第3回)

我が国における植物工場の現状と可能性……………農友会 海外移住研究部 63
- オランダに学ぶ“強い”農業を実現するためには -

飼料用米多収日本一

「平成29年度 飼料用米多収日本一」受賞者…………… 69

農政情報…………… 70

大日本農会だより…………… 71

編集部から…………… 72

ミニ情報

訪日外国人旅行者の旅行消費額・食料品等の購入額の推移…………… 18

訪日外国人旅行者の国籍別にみた土産用食料品等の購入額 (推計値) 39

表紙写真説明

おだがきさん家の八鹿豚 (兵庫県養父市)

養父市は、兵庫県北部に位置する養父郡の八鹿町、養父町、大屋町、関宮町の4町が合併してできた市です。旧八鹿町内に点在していた8軒の養豚農家が臭いや糞尿の環境問題の解決と、経営の効率化や経営規模を拡大のため農事組合法人「八鹿畜産」を設立しました。しかし、餌の高騰・豚価の低迷・後継者不足といった問題等から脱退する人が増え、平成24年には八鹿畜産の養豚部が小田垣家のみとなりました。

そこで、平成25年に「おだがきさん家の八鹿豚」を立ち上げ、愛情を込めた養豚に取り組んでいます。豚舎は穏やかで緑豊かな山々に囲まれている場所にあり、1カ所あたりの肥育頭数を減らし、清掃と消毒を行い、夏場には換気やシャワーミストで豚の体温上昇をコントロールする等、ストレスを与えない環境で育てています。

現在、母豚100頭、育成豚1,200頭を肥育しています。母豚が生んだ育成豚を6～7カ月間育て、115～120kgで出荷します。

(兵庫県養父市 畜産業 小田垣 縁)